

Social Activity Report

Wellness

Otaru Chikko

Town

No.3



Creating Shared Value 経営の実践

市民や地域社会と共有できる価値の創造



ウエルネスタウン

小樽築港ウエルネスタウン構想
活動レポート 2023年10月

法人紹介

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港10-1
電話 0134-21-2757



株式会社小樽ベイシティ開発

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港11-5
電話 0134-21-5555



■事業概要

開業 恩賜財団 済生会1911年5月
北海道支部1924年7月

- ・小樽病院 378床(みどりの里120床)
済生会訪問看護ステーション併設
- ・重症心身障がい児(者)施設 みどりの里
- ・小樽老人保健施設 はまなす
- ・済生会ビレッジ
地域ケアセンター
小樽市南部地域包括支援センター
居宅介護支援事業所はまなす
相談支援事業所併設
ウエルネスリハデイサービスライヴリー
福祉センター
発達支援事業所きっずてらす
きっずてらすDuO
きっずてらすDive
就労支援B型事業所ぶりもぱっそ

■北海道済生会の特徴

- ・全国最大の社会福祉法人グループ
- ・急性期～回復期までの一体的な医療提供
- ・医療・福祉・介護のトータルケアサービス
- ・社会保障制度で対応困難な課題解決事業

■事業概要

開業 1999年3月

・ウイングベイ小樽

敷地面積 81,500㎡
延床面積 340,000㎡
物販面積 98,000㎡
総店舗面積 135,000㎡

■ウイングベイ小樽の特徴

～国内でも類を見ない特徴～

- ・国内有数の面積規模
- ・海が望めるロケーション
- ・大型駐車場(約5,000台)
- ・JR小樽築港駅直結(快速エアポート停車)
- ・施設内の70%が全国チェーン大手のテナントが入居(イオン、ニトリ、ビバホーム)

小樽市について



社会構造の変化に対応したまちづくりが求められている

概要

小樽市は、古くから北海道有数の港湾都市として発展してきました。札幌市から約40kmの距離にあり、道路交通網では国道5号と札幌道により約1時間で結ばれています。鉄道では函館本線札幌駅から約30分、新千歳空港から約70分の所要時間になっています。これに加えて札幌駅と小樽駅、小樽築港駅を結ぶ高速バスが概ね5～15分間隔で運行されており、札幌市内から日帰りで容易に観光することができます。

寿司屋や運河の街として知られ、観光都市としても人気が高く、毎年700万人以上の観光客が訪れています。2023年市町村の魅力度ランキングでは第8位となり、魅力度の高いまちとして評価されています。

人口の現状

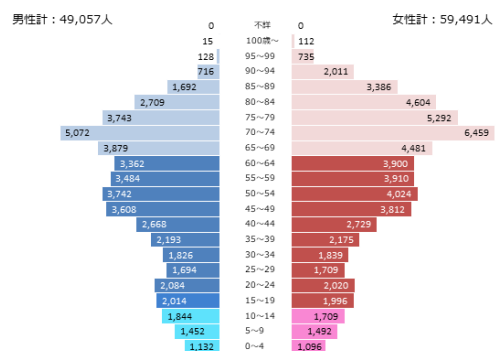
小樽市の人口は、1964（昭和39）年の207,093人をピークに減少が続き、2017（平成29）年9月末には119,352人となり、この50年余りの間に約9万人減少しました。現在2023（令和5）年3月末時点では、107,908人で、前年同期と比較し1年間で1,804人減少しています。

その要因としては、まず、社会動態では、金融・商業機能の札幌への集約や、港湾物流の太平洋側へのシフトなどの社会経済情勢の変化から、1957（昭和32）年から転出数が転入数を上回る「社会減」が始まり、生産年齢人口、特に若年層を中心として、札幌市など大都市圏への転出超過が続いていることが挙げられます。

社会構造の変化

日本の人口は、2007（平成19）年をピークに人口減少社会に突入しました。高齢者人口の増加と出生数の減少による少子高齢化、地方から首都圏への人口流出などが問題視されている中、北海道においては、札幌への一極集中の傾向が続いています。こういった状況下において、地方では労働人口の減少や消費市場の縮小により、更なる人口流出を引き起こすおそれがあることから、人口減少問題は、都市機能を維持していく上で深刻な課題となっています。

小樽市の2023年1月1日の人口構成（住民基本台帳ベース、総人口）



1. まちづくり構想と計画



シンポジウム「インクルーシブ社会を目指して」で活動報告

2020年7月まちづくり開始

北海道済生会と株式会社小樽ベイシティ開発は、「小樽築港地区におけるウエルネスタウン構築に関する協定」を締結しました。

この協定は、社会福祉法人として医療・保健・福祉活動を総合的に提供することを通じてソーシャルインクルージョンを具現化する済生会と、市民及び近隣生活圏に暮らす住民に豊かで健康的なライフスタイルを提案する商業施設ウイングベイ小樽が連携することで、相互のノウハウや資源を活用し、健康で豊かな生活を実感できるまちづくり「ウエルネスタウン構想」を推進することを目的としています。

小樽市における新たな価値の創造、地方創生への貢献を目指します。

2022年11月

シンポジウムで活動報告

ソーシャルインクルージョンとSDGsのまちづくりを考える済生会主催のシンポジウムが開催され、先駆的な「まちづくり」事例としてウエルネスタウン構想の取り組みを報告しました。

シンポジウムは東京港区芝公園のザ・プリンスパークタワー東京で開かれ、福祉関係者ら約210人が参加、小池百合子東京都知事が記念講演を行いました。「障害者などに就労の場を提供するだけでなく、その組織が自立した経済活動を続けていくというのが重要。誰一人取り残さない社会を目指し、持続可能な回復、サステナブルなリカバリー・を東京で実現していくのが私の務めです」と訴えました。



当会からは、榎引常務理事がウイングベイ小樽に開設した済生会ビレッジを紹介。特に発達障害等支援事業は、専門性の高い支援体制を整備し、子どもから大人になるまで、生涯にわたっての継続的支援や訪問支援にも力を入れている状況を報告しました。

また、過疎地域の活性化事業も紹介し、済生会で初となる体験型農場を設置する計画を報告。インクルーシブな社会の実現に向けて、可能性の追求を続けていると訴え、参加者から高い関心を集めました。



北海道済生会ソーシャルインクルージョン推進室を設置

2023年6月推進室の活動開始

社会的に弱い立場にある人々を含む、すべての人を地域社会で受入れ共に生きていく、という理念。済生会は、施薬救療を使命として設立され、100年以上にわたって生活困窮者支援を積極的に行ってきました。

現在、日本は少子高齢化時代を迎え、様々な形で生活困窮者となる方が増えています。医療・福祉を含めた広い観点から人々を迎え入れるソーシャルインクルージョンの考え方は、これからの日本に必要不可欠です。

北海道済生会では、ソーシャルインクルージョンのまちづくり「ウエルネスタウン構想」事業を展開し

ていますが、これまでの取り組みをより一層推進するため、事務局内に「ソーシャルインクルージョン推進室」を設置しました。

同室では、北海道済生会が今後も企業価値と持続可能性を高め続けるための舵取りを担い、社会課題に対し、経営陣や施設・事業所、さらには企業等と連携しながら解決策を追求し、当会の歩むべき方向性を考えます。また、これらの活動を内外に広報し、済生会のブランド価値を高める活動も担います。

視察来訪 経済産業省様



日本生協連様



「ウエルネスタウン」構想の3つの取り組み

① 身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案

医療・介護・福祉の拡充

- 済生会小樽病院との協働取組
- アクティブシニア支援
- フードバンク事業

② 環境的に健康で豊かな生活の提案

住民サービスの拡充と生活利便性向上

- 行政（窓口）サービス
- 商業施設その他
利便施設の整備
- ライフスタイル型
大型テナントの誘致
- クリニックモールの新設

③ 社会的に健康で豊かな生活の提案

人口減対策と安心・安全なまち

- 企業誘致
(シェアオフィス、レンタルオフィス)
- 看護学校の新設
- CCRC事業展開
- 地域防災拠点
(エネルギー棟を備えた安心・安全なまち)

あらゆる視点から健康で豊かな生活（＝ウエルネス）を定義

住みたい・住み続けたいまちを創出することで、人口の維持と増加をはかり、まちの成長力確保をはかります

「ウエルネスタウンの定義」

ウエルネスタウン構想 3つの取り組み

【ウエルネスの定義】

ウエルネスタウンを実現するにあたり、まずは、私たちが目指す「ウエルネス」の定義づけを行いました。



②環境的に健康で豊かな生活の提案

【行政サービスなどの拡充】

地域住民の住環境の充実や利便性を提供します。

ウイングベイ小樽の商業施設としての現機能に加え、市民にとってより便利な機能を拡充し、公共性の高いサービス機能の充実、市のサテライトオフィスなどの誘致活動に取り組みます。

また、急激な社会変化に対応できずに困窮する社会的弱者が増加していることを踏まえて、行政や企業と連携し救済ネットワークを構築します。

さらに、産学官民連携による新たなヘルスケア産業の創出事業にも取り組み、先駆的取り組みによる地域の活性化やブランド化にも貢献します。

①身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案

【医療・介護・福祉の充実】

小樽市の高齢化率は全道平均より高く、2045年には二人に一人が高齢者になることが推計されています。北海済生会と小樽ベイシティ開発は組織的な連携体制を構築し、ウイングベイ小樽内に市民のための健康・福祉ゾーン「済生会ビレッジ」を開設し、地域包括ケアシステムと地域課題解決のための事業拠点を設置しました。

また、国の制度やこれまで行ってきた事業の枠を超えた事業にも積極的に取り組んでいきます。

③社会的に健康で豊かな生活の提案

【人口増加を意識した取り組み】

近年自然災害が頻発し全国各地で甚大な被害が発生していることを踏まえ、小樽ベイシティ開発のエネルギーセンターとウイングベイ小樽の広い空間を活かした地域防災拠点施設として必要な機能を整備し、安心・安全な暮らしを提供します。そのうえで、アクティブシニアを中心にあらゆる世代が「生涯活躍ができるまち」CCRC（Continuing Care Retirement Community）の構築を目指します。

また、地域外からの流入による人口減対策を図ることを目的とし、ウイングベイ小樽内にシェアオフィス、レンタルオフィスの整備も計画します。

2.

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～

【医療・介護・福祉の充実】

済生会ビレッジの課題解決事業

年間延べ23,000人の市民が利用（2022実績）

社会保障制度 枠内の事業	社会保障制度 枠外の事業
既存サービスをベースとした 進化系サービス	行政や既存サービスでは対応できない イノベーションサービス
 <p>地域ケアセンター 生活ど真ん中に 事業所ごとアウトリーチ</p>  <p>発達支援事業所 きっずてらす 企業連携・生涯支援 デジタルとアート</p>	 <p>ウエルネスチャレンジ 生活改善プログラム ウォーキングコース</p>  <p>地域共生推進事業 新たな子供の居場所 共生型スポーツ・就労</p>
 <p>ウエルネスリハデイ ライヴリー 買い物リハビリ 脳運動機能活性化理論</p>  <p>就労支援事業所 ぶりもぱっそ 社会貢献型ショップ 市民との協働型事業</p>	 <p>フードバンク 物資支援の中核 自販機型フードバンク</p>  <p>連携 社会課題解決 まちづくり 実証研究</p>

地域共生社会の構築と地域課題の解決

発達支援事業所きっずてらす

2023年8月 自立支援型事業所 Dive開設

お仕事体験などを通じて、社会での自立した生活ができることを目指す支援事業所をコンセプトに、きっずてらすの第3号目の事業所Diveを開設しました。

この事業所は、商業施設という立地を生かしテナントと協力の「お仕事体験」など就労を意識した企画や、調理、ゲーミングPC・3Dプリンタ操作、ドローンの操縦など、個々の得意な分野を伸ばすプログラムを提供しています。

様々な環境を整えたこの施設は、企業等と連携し、地域の課題解決に向けたものづくり・サービス・政策等を創り出すリビング・ラボとしても機能しています。



2023年9月 デジタルアート×生業づくり

北海道済生会、きっずてらす、日本総研、小樽商科大学では、発達障害のある子供たちが活躍できる社会づくりを目指しています。デジタルアートを通じて、やりたいことを発見し得意な分野を伸ばす環境を整えることで、将来の生業づくりにもチャレンジしていきたいと考えています。

9月10日、就労特化型支援事業所Diveの開設に合わせて、楽しみながらデジタルアートを体験してもらうイベント「自分らしく、作って楽しむ！デジタルアート」を開催しました。

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



グレーゾーンも含む
発達が気になるお子さま向け

北海道 小樽市 保育園留学



北海道 小樽市
発達支援事業所 きっずてらす

発達支援に特化した全国初の保育園留学

2023年7月保育園留学がスタート

小樽市と株式会社キッチハイクとの連携で、全国初の保育園留学がスタートしました。このサービスは、小樽と全国の子育て家族をつなぐ体験プログラムで、約2週間家族で小樽に滞在し、子どもには心身ともにのびのび育つ環境を、家族には働きながら、子育てしながらも多様な選択肢を、地域には家族ぐるみの超長期的関係人口の創出や地域経済への貢献をもたらします。

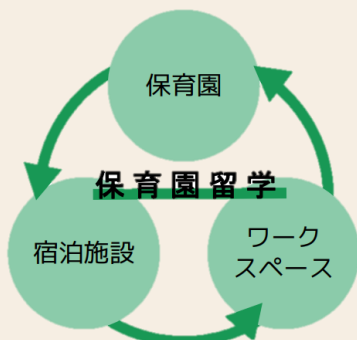
きっずてらすはこのプログラムで、グレーゾーンも含む発達が気になる子供を対象に、書籍執筆も手掛ける作業療法士や言語聴覚士、公認心理師などが、他では体験できない個別支援・集団活動を提供します。

医療的ケア児通所支援開始

たんの吸引や経管栄養管理など医療的ケアが日常的に必要な「医療的ケア児」は、新生児医療の進歩などを背景に増加傾向にあります。そうしたお子さんをお預かりする施設は極度に不足しているため、保護者の精神的・身体的負担や、就労の喪失が社会問題となっています。

当会では、重症心身障がい児施設のみどりの里で、入所や短期入所サービスを提供し、地域で暮らすお子さんには、きっずてらすで通所・訪問支援を提供、自宅での医療的ケアについては訪問看護ステーションと連携し、包括的な支援サービスに取り組んでいます。

あるべき未来
パッケージ化



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



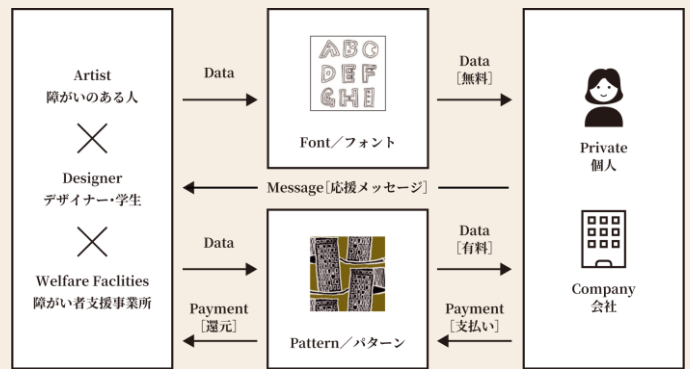
ご当地フォントプロジェクト「OTARU SUPER FONT MAKER」

発達支援事業所きっずてらす

2023年8月 **ご当地フォント
プロジェクト**

きっずてらすの子供たちと作業療法士や理学療法士などのセラピスト、そしてデザイナーがタッグを組み地元オリジナルの文字のデザインや柄を生み出す「ご当地フォントプロジェクト」がスタートしました。

「ご当地フォント」とは、一般社団法人シブヤフォント」が運営する福祉還元と地域活性化事業です。ご当地フォントとして登録されたロゴやパターンのデータは公式サイトで公開・販売され、その売上金がプロジェクトチームに福祉還元されます。障がい者の経済的自立を目指す革新的取り組みです。



ご当地フォント <https://www.gotouchifont.jp/>



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



買物弱者へ新たな介護サービス ライヴリー

通所サービスで買い物
楽しみながら介護予防

ウエルネスデイサービス ライヴリーでは、利用者の筋力維持や認知症予防を目指し、買い物をリハビリテーションプログラムに組み込んでいます。

商業施設に入居する強みを生かすことで、実際の店舗をリハビリの場とすることが容易となりました。人混みでの移動やレジの支払いなど日常生活に則した訓練を行うことで、生活の質の向上を目指しています。

身体機能の低下や地域環境に事情により、これまで不可能であった買い物を楽しみながら、身体機能の維持や回復を行います。

ライヴリー×ご当地フォントプロジェクト



ご当地フォントプロジェクト「OTARU SUPER FONT MAKER」が製作したパターンを、スズキ株式会社の協力を得て、高齢者用に開発された電動シニアカー「セニアカー」にラッピングしました。

このセニアカーは、ライヴリーの買物リハビリでも活用され、商業施設内で走行しています。

利用者からは、「カラフルな車両で買い物できるのがとても楽しい」、通行者からも「色合いが良く、とても素敵ですね」と声をかけられるなど、とても好評です。

①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



**みんなが生き生きと暮らせる小樽を再び。
病院による農園づくり、はじまります。**

**クラウドファンディングにもチャレンジした
ソーシャル・ファーム（社会的企業）事業**

元気な小樽をもう一度ここから。

病院発の農園づくり

障がい者あるいは労働市場で不利な立場にある人のために仕事を生み出し、また、支援付きの雇用の機会を提供することに焦点をおいたビジネスをソーシャル・ファームといいます。

当会では、小樽市民参加型のソーシャル・ファームを実現するため、過疎化が進む地域で農園「済生会ファーム」を開設し、事業活動に着手しました。

住民や障がい者等が協力してブルーベリー等の農産物を生産し、ウイングベイ小樽で加工・販売を行います。この一連の中で、地域活性化や交流促進、社会課題解決にもつなげることを目指しています。

○済生会ファーム

- ・小樽市塩谷
- ・老人保健施設はまなす敷地
- ・住民菜園・休耕地活用
- ・小樽築港
- ・重症心身障児（者）施設みどりの里福祉農園

○食品加工場

- ・ウイングベイ小樽食育農園
- ・ウイングベイ小樽済生会ビレッジ食品加工場

○販売所

- ・ウイングベイ小樽済生会ビレッジぶりもショップ
- ・済生会小樽病院特設販売所

農園の設置等の事業資金を募るクラウドファンディングにもチャレンジしました。

皆様の温かいご支援に、心より御礼申し上げます。

クラウドファンディング

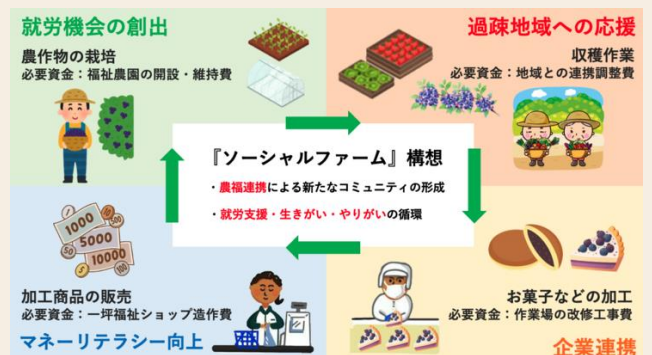
目標金額 1,100万円

寄付総額 13,244,420円 寄付者304人

記念すべき第1号販売品



**農福連携で地域の人々が生き生き暮らし
「6次産業化」で経営的に自立できる社会的事業**



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



地域とともに成長する就労支援事業

就労継続支援事業所

ぷりもぱっそ

児童発達支援から就労支援まで、生涯にわたっての支援体制を構築するため、2021年に就労継続支援B型事業所「ぷりもぱっそ」を開設しました。

これにより、「きつずてらす」等で支援を受けたお子さんが、必要に応じて、なじみの空間で安心して作業を習得し賃金を得られる環境が整いました。

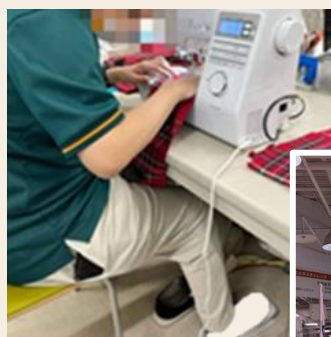
これまで、外部委託していた病院清掃やクリーニングを支援事業所へ内製化したことで、安定・高賃金な就労環境を提供することができます。また、ウイングベイ小樽の各テナントと連携することで、多種多様な作業を請負うことが可能となり、利用者の個性に合わせた支援が実現しています。

2023年8月ぷりもショップ開店

「ぷりもショップ」を済生会ビレッジに開店しました。このショップは、就労支援事業所ぷりもぱっそが運営し、障がい者等の就労支援につながる商品やSDGs商品などを販売しています。「買って！得して！社会貢献！」をコンセプトに、消費者との共生を目指した、社会貢献型ショップです。

当店が開発したタータンキルト商品や、カステラなどを製造・販売する老舗文明堂さんとコラボした、オリジナルどらやき「ぷりどら」も販売しています。

事業の趣旨に共感した市民の応援に支えられ、売側と買う側の会話の絶えない賑やかな店舗です。



①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～
【医療・介護・福祉の充実】



企業との連携を通じて生活物資支援に取り組む

済生会フードバンク

個人や企業などから寄付された食品を、生活に困っている世帯に無料で配る「フードバンク」の取り組みが、小樽で広がっています。市内では当会が2021年に活動を開始し現在では、ひとり親家庭の支援団体など3団体が実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大期間中は、困窮世帯が増える懸念が高まる中、済生会や行政が中心となり支援団体間の連携構築と活動の輪を拡大してきました。

現在、行政などで「食を通じたセーフティーネット」構築に向けた取り組みが進んでおりますが、フードバンクは、それらを補完する活動として注目されています。

イオン小樽店と連携した「フードドライブ」

イオン北海道は食品廃棄物削減に関する理解と協力推進を目的に、2023年10月5日より毎月、イオン小樽店で「フードドライブ」の取り組みを開始しました。フードドライブは、市民に協力頂き「ご家庭で消費されずに残って未開封かつ賞味期限内の加工食品」を店舗にお持ちいただきます。

回収した食品は、北海道済生会が運営するフードバンクに寄贈いただき、小樽市内及び近郊の子ども食堂や生活支援を必要とされる方に届けています。

小樽駅マーケットと連携したフードドライブイベント



②～環境的に健康で豊かな生活の提案～

【行政サービスなどの拡充と生活利便性の向上】

お野菜等を販売する「ぶりもしょぶ」や学生による出店、北海道産品の販売などママ、パパも楽しめる物販ブースもございます！

ひとり親家庭への支援

2023年8月パパ・ママ応援イベント
に350人を超える市民が参加

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道、株式会社FUJI、株式会社小樽ベイシティ開発、北海道済生会が協働でひとり親支援を目的としたイベントを開催しました。

当日は食料品や靴、化粧品などの日用雑貨品を無料配布したほか、防災ワークショップ、地域食堂ブースなどを設け、ひとり親家庭が親子で楽しめるブースも用意しました。

会場は、同じ境遇のパパやママさんの情報交換の場にもなり、安心して語り合う場にもなっていました。

地域食堂では、道内大学生が作った豚汁を提供



子どもの居場所づくりに関する調査実施

ウイングベイ小樽内に設置した「済生会ビレッジ」を拠点とした、「子ども」の居場所づくり、「フードバンク」「障がい児就業体験」と連携し整備する「地域食堂」、母親の就労をサポートする機能等の可能性を検討するための調査を実施しました。

今後は、調査結果を踏まえて、機能整備に取り組んでいく予定です。

フードバンク利用者アンケートで頂いたコメント

- ・本当に小樽で開催してくれてありがとうございます。カバンいっぱい食料品や靴まで頂きました。ありがとうございました。また開催していただくとありがたいです。
- ・子どもと一緒に楽しむことができました。防災グッズや日用品、食品、化粧品を頂けて有難いです。心がホット温くなりました。
- ・価格高騰の折、節約のため子供たちに我慢をさせることがあります。寄付して下さった皆さん、沢山の応援ありがとうございます。
- ・ご縁があり参加することができたことを非常にうれしく思います。感謝しております！

②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充と生活利便性の向上】

「自然と健康になれる社会」づくりに向けた実証

自然と健康になれる社会へ！

日常生活に係る
場面・場所、
ナッジ手法の活用

× ヘルスケア

= 無関心層の
健康増進

出典：日本総合研究所HP（本事業公募資料の概要版より抜粋）

日常生活に係る
場面・場所

大型商業施設「ウイングベイ小樽」

ナッジ手法の
活用

- ・ウォーキングを促進する施設内の仕掛け
- ・専用LINE公式アカウント等でのプロモーション
- ・産業保健師の個別相談による介入
- ・企業間競争イベント（社会的規範）



ヘルスケア

- ・北海道済生会（医療機関）の参画による住民への安心感の訴求
- ・テナントの協力により「敷居の低い」「わくわく」コンテンツ開発
- ・ウェルネスをコンセプトにし「健康づくり」の押し売りを排除

無関心層の
健康増進

「健康づくり。わかっちゃいるけどできない層」を
ターゲットに「やってみよう」を促進できる環境づくり

医療機関、商業施設（テナント含む）が「ヘルスケア」に投資し、ヘルスケア需要を創出することによってビジネスとして成立するモデル構築

産学官民連携の推進

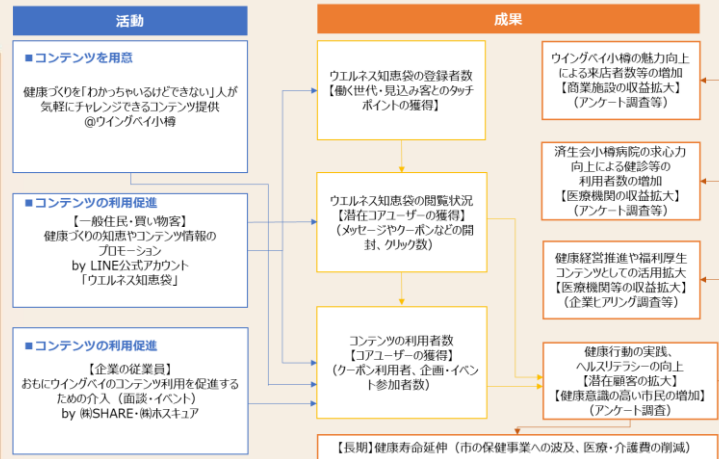
経済産業省令和5年度 ヘルスケア産業基盤高度化推進事業 （ヘルスケアビジネス創出推進等事業）

本事業は、予防・ヘルスケア分野に取り組む北海道済生会と株式会社北海道二十一世紀総合研究所が中心となり、商業施設の強み（多くの住民とのタッチポイントや広大な空間、様々なテナントを有するなど）と、ナッジ理論を活用し、「健康になれる商業施設」に係る実証を行っています。

ウイングベイ小樽を拠点に当会と共創し、ナッジ手法を有効活用した①商業施設内でのヘルスケアサービス開発、②商業施設内の空間等と効果的なプロモーション方法の確立、③医療専門職による効果的な介入の確立に向けた実証を行い、「健康になれる商業施設」モデルを創ります。

【商業施設や企業との共創による、働く世代の健康無関心層向けの「医療機関の新ビジネス」創出実証】

本事業の活動と成果のイメージ



アライアンス会合 フィールドワーク ウェルネスタウン実証視察



2023年10月 ヘルスケア産業協会 アライアンス会合開催

全国の地域版次世代ヘルスケア産業協議会とその団体等を対象とした、ヘルスケアビジネス創出を支援する場を目的とするアライアンス会合が小樽市で開催されました。

会合プログラムでは、経済産業省令和5年度事業の紹介のほか、「医療機関と商業施設の連携による健康な街づくり可能性」をテーマにしたパネルディスカッションも行われ、登壇した榎引常務理事は、「可能性を追求するためには変化に恐れることなく、時代や自院にあった経営革新に合理的、積極的に取り組んでいくことが重要」と来場者に訴えました。

②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充と生活利便性の向上】

自然と健康になれる商業施設へ

2022年10月 LINE公式アプリ 「ウェルネス知恵袋」開設

LINE公式アプリ「ウェルネス知恵袋」を新たに開設しました。

このアプリは、済生会とウイングベイ小樽の連携により、お買い物ついでに「カラダ」や「ココロ」を整えたり、子どもたちが遊び学べる環境整備を通じて、市民の「生活を良くする」お手伝いをします。

公式キャラクターの「ウイングベイバー」が、ウェルネスにつながる知恵をゆる〜く、こっそりと伝えてくれます。

ナッジを利かせた ウォーキング促進の仕掛け

床に足跡シール等を貼り、身長に応じた歩幅を設置し、歩行の質向上等にアプローチしています。

その他ウォーキングアプリやARアプリも併用し、ナッジやICTを活用した実証を行っています。



済生会関連報も充実

「ウェルネス知恵袋」では、済生会ビレッジや済生会ウイングベイウォーキング、ちょこっと健診などの利用案内のほか、ぷりもショップの利用促進につながる豊富な情報が満載されています。

このアプリを活用し、プロモーションツールとしての効果実証も行うほか、市民が済生会やウェルネスタウンとの接点を継続的に維持できるツールとしての運用を検討して行きます。

済生会小樽病院のちょこっと健診。予約不要、約20分で終了!! クーポン表示で5ポイント付与!!

2024/02/29 23:59まで

☑ ウェルネス知恵袋〜ウイングベイ小樽〜
@wingbaby

✓ このクーポンを保存する



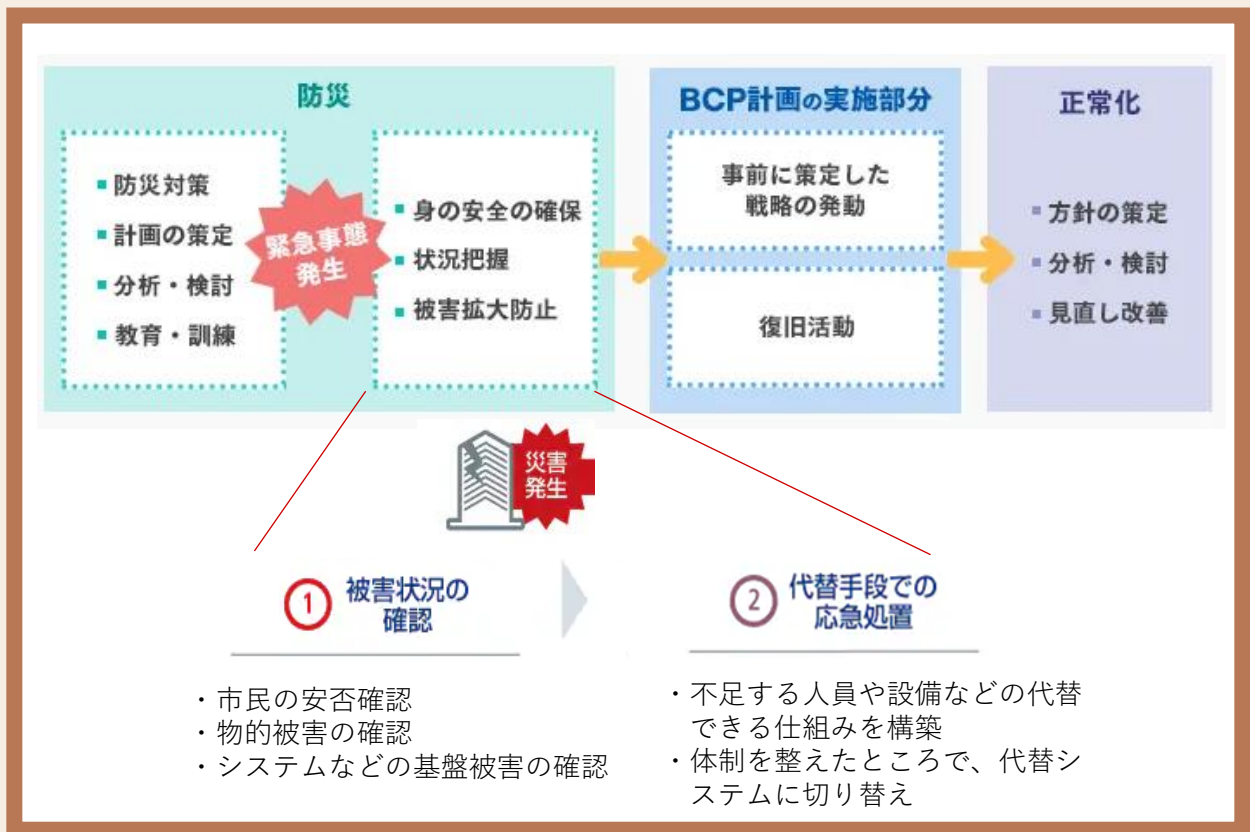
こんな方にお勧めです。
・会社（職場）での健診結果が「要再検査」となった方
・定期的な検査が必要な方
・生活習慣病が気になってきた方
・主婦の方で健康診断を受ける機会がない方

【実施場所】 済生会小樽病院健診センター
【受付時間】 月～金曜日 9:00～16:00（休診日を除く）

【受付方法】
・受診券を事前にご購入いただき、窓口までお越しください。
・受診券は済生会ビレッジ（ウイングベイ小樽5番街1階）または病院にてご購入いただけます。
【ウェルネスポイント付与】
-この画面をスタッフに提示いただくと、スタッフが5ポイント付与用のQRコードを提示いたします。

■お問い合わせ先
北海道済生会小樽病院 健診センター
〒047-0008 小樽市築港 10 番 1 号
電話 0134-25-4321
クーポンの有効期間は、UTC+09:00を基準に表示しています。

③～社会的に健康で豊かな生活の提案～ 【人口減対策と安心・安全なまち】



防災・災害時対策

地域防災の拠点化を目指す

小樽は、プレート境界の動きがゆっくりとした日本海側にあるため、プレート境界の動きが活発な太平洋側に比べ、地震が少なく、小樽に主な活断層は確認されていません。

また、津波の被害も多くはありませんが、一旦災害が発生すると、多くの急傾斜地を持つ地域的特性から土石流や地滑り等が発生する可能性は極めて高く、雪の積もる冬季間を想定すると、甚大な被害となることは容易に予想がつきます。

将来起こり得る災害に対し、行政機関だけで対応することは困難であり、民間主体との連携・協力が不可欠です。

ウエルネスタウン構想では、ウイングベイ小樽の防災拠点化も目指しています。2018年に発生した胆振東部地震では、小樽市の要請を受け、8千平方メートルの観光客用避難所を設けました。

今後起こり得る大規模災害発生時には、被災者を収容し、併設するエネルギーセンターを稼働させた電力供給、全国済生会グループ等から派遣される医療チーム(DMAT)や介護チーム(DCAT)の待機・活動の場としても機能させることが可能です。

2023年7月防災ラボ開催

ウエルネスタウン構想に掲げる“地域防災拠点づくり”を目的に、市民の防災啓発活動や関係機関の連携を深めるためのイベント「防災ラボ」を開催しました。

当日は、160人を超える市民が集まり、日頃経験できない災害救助犬の実演にも参加いただきました。

このイベント開催を機会に、このような活動の重要性が確認されました。

今後も、小樽市や自衛隊、海上保安庁等と連携し、継続的に開催する予定です。



2. まちづくり連携と協働



過疎地域への支援

2022年11月生活不便地域に 移動バスを運行

急速な高齢化と過疎化が進む小樽市塩谷・桃内地域に済生会小樽病院の無料送迎バスを運行しました。スーパーがない同地区の買物弱者対策として、病院受診にかかわらず商業施設利用者にも開放しています。市内中心部は買い物や通院は比較的しやすい状況にありますが、小樽は坂が多い上、海沿いに東西に長い地形のため、中心部を離れると高齢者には住みずらさがあります。小樽築港地区を中心とするウェルネスタウン構想は、事業拠点の築港地区にとどまらず、小樽全域で商業と福祉の関わりを深めています。



2022年8月歴史と文化を伝える 活動を支援



日本泳法(古式泳法)の向井流水法を北海道で伝承する向井流水法会の活動を支援しています。江戸幕府の武術用の泳法として編み出された向井流水法は、1895年に小樽に伝わり、1991年に市無形文化財に指定されました。近代泳法にはない特徴のある脚の使い方や呼吸法を学ぶことができます。小樽の貴重な文化財を未来につなげる活動を支援しています。





医療とまちづくりの未来を考える

2022年10月小樽くらしたい 共創フェス2023

北海道済生会・病院マーケティングサミットJAPANがコラボし、ウェルネスタウンの取組について見て・聞いて・体験する・未来を考え・交流する盛りだくさんのイベントを開催しました。小樽市は医療における課題が確実に地域の人口動態にまで影響しており、病院、行政、企業や地域住民が連携し、“医療・福祉”を地域に根差すことが必要です。

全国から集まった専門家や研究者、企業、学生といった多彩な活動紹介は、小樽の未来づくりに沢山の気づきやヒントを与えてくれました。

プログラム1「小樽すこやかな暮らしツアー」

小樽の暮らしを実感できるスポットをバスで巡り

プログラム2「キミと描く、小樽の暮らしと医療」

司会 病院マーケティングサミットJAPAN代表理事 竹田陽介

・基調講演「小樽ですこやかに暮らそう～加速するウェルネスタウン構想～」
北海道済生会常務理事 榎引久丸

・未来づくり講演

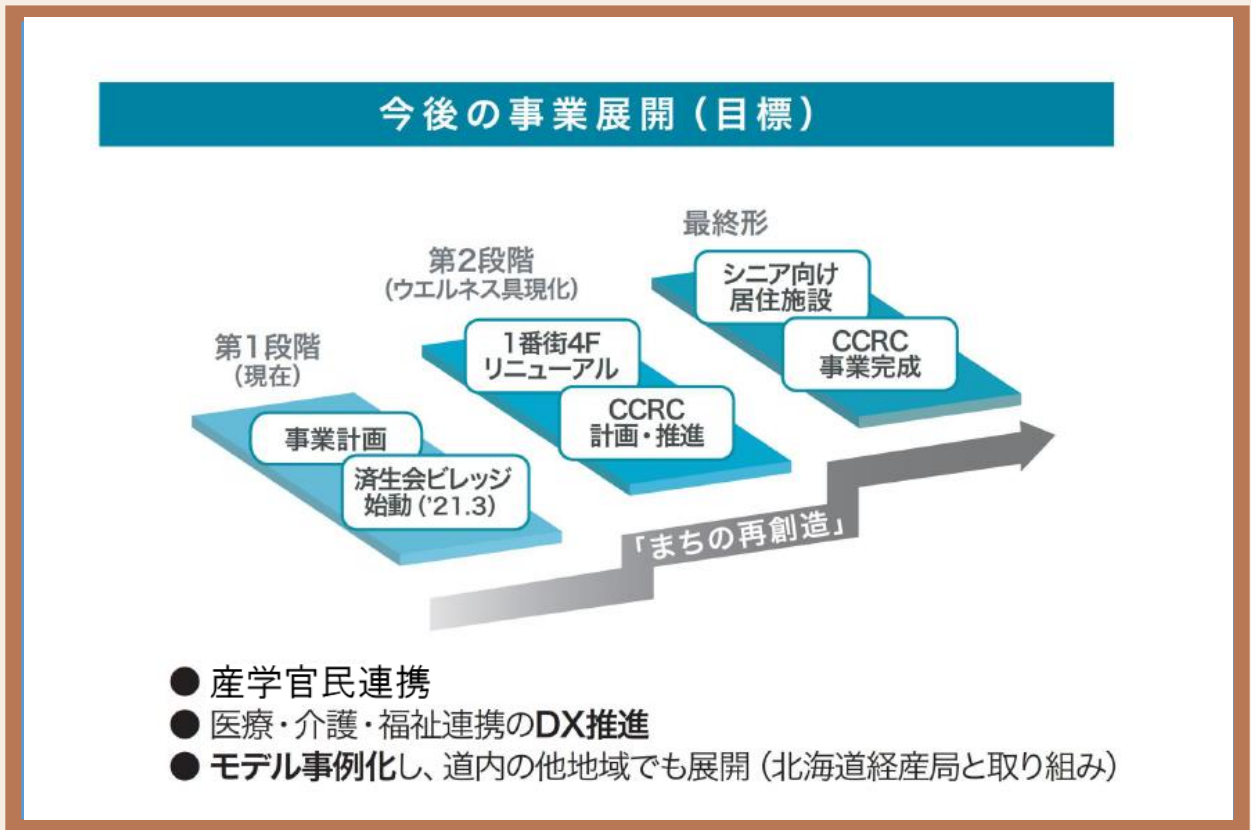
- ①「解体祭～終わりではなく、まちの再生のはじまり」
都市テクノ総合企画部 鶴元伶一郎
- ②「大学生×企業～「美味しい」の開発から繋がるまちづくりの輪～」
北海学園大3年 荒川洗大、株式会社FUJI
- ③「こまった課？カードゲームで考える他者とともにある社会」
株式会社デジタル・アド・サービスサービス推進リーダー 竹内悠
- ④「健康無関心層を動かしたい！ウェルネス知恵袋@ウイングベイ小樽」
株式会社北海道二十一世紀総合研究所調査研究部長 河原岳郎
- ⑤「ライフスタイルセンシングが描く、近未来の暮らし」
奈良県立医科大学MBT研究所副所長、研究教授 梅田智広
- ⑥「高校生が考える未来～暮らしとウェルビーイング～」
新渡戸文化高等学校1年 名和美結
- ⑦「医療とアートの新たな可能性～芸術を処方するまちづくり～」
医療とアートの学校代表、似顔絵セラピー代表 村岡ケンイチ

プログラム3「小樽すこやかポットラック」

持ち寄り懇親会と村岡ケンイチ氏によるアート制作実演



3. ウェルネスタウン構想の事業展開



「構想第1段階を終え、第2段階へ加速」

小樽築港版ニューCCRC構想

私たちのまちづくり「ウェルネスタウン構想」は、小樽築港地区既存の資源を活用し、高齢者が健康な段階で地方に移住し、地域において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療・介護など継続的なケアを受けられる生活共同体「小樽築港版ニューCCRC」の実現を最終目標としています。

地域住民が、健康で豊かな生活を送れるまちを目指すことは勿論のこと、就労者人口の増加や、首都圏や札幌、その他の地域からの移住を促進して定住人口の増加の取り組みも行っています。

現在、構想第1段階を終え、CCRC構想を具現化する2段階目の取り組みが加速しています。

地方創生の取り組み

東京への人口集中による地方の人口減少を是正し、日本の活力向上を目指す一連の政策が「地方創生」です。地方創生のキーワードとなるのが、「まち」「ひと」「しごと」です。継続的な雇用の創出や有効な人材活用とした「しごと」と「ひと」の好循環により、地域の経済を発展させることができます。そして、それを支えるには、働きやすい、住みやすい「まち」の活性化が不可欠なのです。

私たちが目指す「ウェルネスタウン構想」には、これら要素が含まれています。3つの要素がうまく作用しあうことで、「ウェルネス」が実現し「地方創生」につながると考えています。

都市計画地区計画変更

小樽ベシティ開発は、小樽市に築港地区の地区計画変更の申請を行いました。地区計画とは、都市計画において、それぞれの地区の特性に応じて一体的に良好な環境を整備・開発・保全するために決定された計画です。「ウェルネスタウン構想」の拠点施設であるウイングベイ小樽周辺は、「商業・レクリエーション地区」として定められていることから、構想実現に必要な地区計画の変更案を市に提出しました。

本提案は、小樽築港駅周辺地区地区計画の区域内の「医療・福祉関連サービス業務地区」に存する社会福祉法人と健康的で安心な暮らしを守るまちづくりを進めるため、「ウェルネスタウン構想」に関する協定を

結び、連携協働して「まちの再創造」を推進し、健康な高齢者が健康で文化、教養にあふれた豊かな暮らしができる環境を整備することを目的としたものであり、第7次小樽市総合計画のテーマ「人口減少・少子高齢化への対応」の施策である「将来人口への適応」の目標に即しているなどの判断から、地区計画の変更が実現しました。

「ウエルネスバレー計画」～タウンを中心とした地域づくり～

健康・医療・介護・福祉事業（ヘルスケア事業）が集積する当地域において、これら関連事業が連携し戦略的に進行することにより、本市の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出を図るとともに、質の高いサービスや製品を供給できる地域づくりを目指す。



- 集積
 - ・住居（サ高住など）
 - ・教育機関（看護学校など）
 - ・公共サービス
- 連携
 - ・介護事業所連携
 - ・福祉事業所連携
 - ・企業連携
- 新規事業
 - ・子育て支援事業
 - ・介護予防事業（買い物デイなど）
- ヘルスケア関連ビジネス創出事業
 - ・経産省関連事業
- 健康づくりサポート事業
 - ・元気づくりサポーター育成
 - ・介護予防、認知症サポーター育成
 - ・ウエルネスチャレンジ活用拡大
 - ・健康インフラ整備
- 健康経営支援事業
- まちづくり連携
 - ・歴史と文化のまちづくり

将来を見据えた戦略的な地域づくり

ウエルネスバレーとは

「ウエルネスバレー」とは、小樽築港地区とその周辺エリアにウエルネスに関する先進的な取り組みを行う企業や団体、教育機関を誘致・集積し、日本社会の課題解決に向けたウエルネス産業を創出するエリアを意味します。ハイテク企業やベンチャー企業の集積地となったアメリカカリフォルニア州の「シリコンバレー」をなぞって名付けたものです。

小樽は、まちの発展における歴史が豊富で自然環境にも恵まれ、大都市札幌に隣接するポテンシャルの高い観光商業地と言われる一方で、人口減少は止まず地域経済は低迷しています。このような観光商業地としての小樽の現状は、日本の将来の縮図とも言えます。

一方で、小樽築港地区には、世界中の都市で打ち出している「コンパクトシティ構想」に描かれているような社会インフラや必要サービスが既に存在しています。北海道済生会が提供する医療・介護・福祉サービスや制度外の地域課題解決サービスは市民から多くの期待の声が寄せられ、地区計画の変更によって大型商業施設のウイングベイ小樽は施設を柔軟に機能させ、居住や買い物、交流等の各種機能を集積した集約型都市構造（歩いて暮らせる環境）を実現することが可能となります。

このように、他に類のない地域資源を有する小樽は、社会課題解決のための先進的事業開発を目指す企業にとっては非常に魅力的な地でもあります。

当地で「ウエルネスバレー」を実現することは、市民が将来にわたって健康で安心して生きがいの持てる豊かな地域を実現するとともに、地元企業や団体の生産性の獲得と雇用の創出、地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と新規事業が継続的に生まれる地域の実現も期待できます。



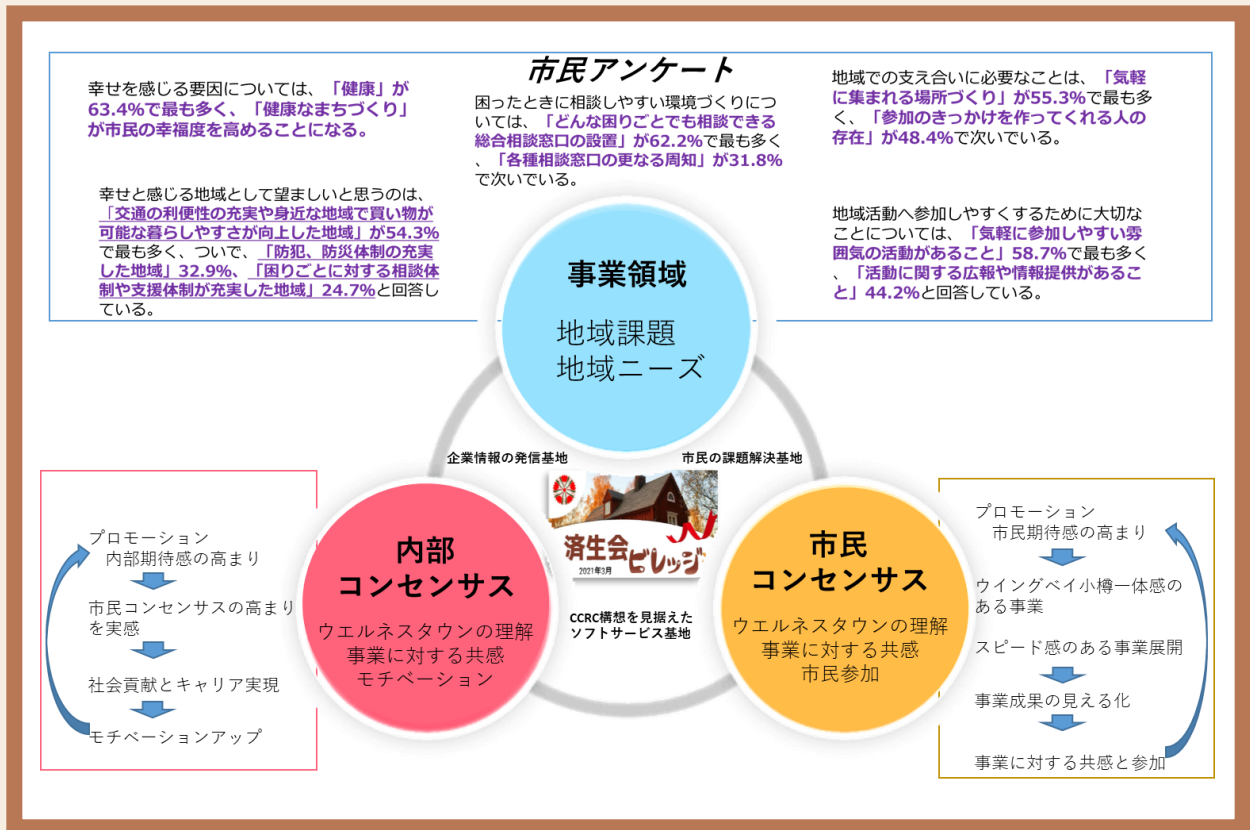
スマートスタジオ・スマートウェイ小樽

ウイングベイ小樽5番街1階済生会ビレッジ隣のスマートスタジオ小樽では、メタボの対策、腰痛・膝痛の緩和、骨粗鬆症の予防などの個別指導を充実させています。

経済産業省実証事業では、当会の事業パートナーとして、社会課題解決に取り組まれています。



4. 市民の声に応える計画策定と広報活動



市民の声はウエルネスなまちづくりに期待している

地域課題解決につながる事業

第1期小樽市地域福祉計画・小樽市地域福祉活動計画「たるたる支え愛ぷらん」（2021年3月）では、アンケート調査から見えた小樽市の現状と題し、「しあわせな地域づくりのための市民アンケート」を公表しています。

このアンケート結果から、私たちが進める「ウエルネスタウン」構想事業は市民の期待に応えるものであること、済生会ビレッジで行われる事業が市民から共感いただける事業であることがうかがえます。

済生会ソーシャルインクルージョンサイト「シンク！」では、小樽ウエルネスタウンのまちづくり活動を紹介しています。



事業広報による共感の高まり

SNSなどを活用し、ウエルネスなまちづくりの活動状況やイベント情報などの発信しています。

「北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook」のフォロワー数は336人、投稿を見たユーザー数を表すリーチ数は、年間で114,933リーチとなっています。

北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook



5. SDGs活動報告



事業戦略で貢献する目標 2020～2022年

虐待児童措置受入件数	13		16 平和と公正をすべての人に	1 貧困をなくそう	51,446	無料低額診療件数
社会的に重要な施設への電気供給検討 (OBCエネルギーセンターから済生会小樽病院へ)			13 気候変動に具体的な対策を	2 飢餓をゼロに	195	生活物資支援件数
フードバンク フードドライブ件数	2,369		12 つくる責任 つかう責任	3 すべての人に健康と福祉を	1,072	生活困窮相談支援件数
包括支援総合相談延件数	3,819		11 住み続けられるまちづくりを	4 質の高い教育をみんなに	7,102	フードバンク バックパック量(Kg)
介護予防教室支援件数	28		10 人や国の不平等をなくそう	5 ジェンダー平等を実現しよう	1,672	ウエルネスチャレンジ参加者数
オレンジかぶえ参加人数	1,307		9 産業と技術革新の基盤をつくろう	8 働きがいも経済成長も	229	無料健康相談件数
障がい者アート等出展件数	213				7,188	児童・学童発達支援件数
障害者雇用率 (2022実績)	2.6				238	保育所等訪問指導件数
実証事業等参加件数	8				1.0(男性) 100.0(女性)	育児休暇取得率 (2022実績)
					84	短時間勤務制度利用者数
					123	保育補助制度活用者数
					1,239	就労支援利用者数
					740	健康経営従業員数 (2022実績)



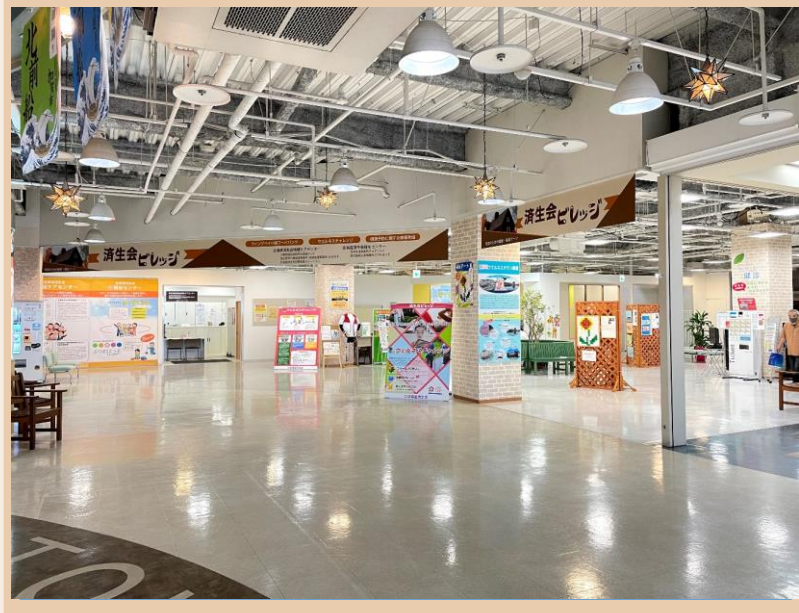
11 小樽市社会福祉協議会、小樽市福祉総合相談室たるさば、(株)二十一世紀総合研究所、(株)SHARE、(株)日本総研、Light-on、(株)ソプラティコ、(株)RIDEAL、おたる夢市場、ダルオペーカーリー、平野パン、徳源寺、専名寺、塩谷桃内まちづくり推進委員会、向井流水法会

6. 報道等

- 2020年07月01日 北海道新聞 「済生会・イオン・OBCがウエルネスで連携協定」
- 2020年12月18日 北海道新聞 「医療・介護誘致にかじ」～ウイングベイ小樽「再生」3年～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「横断歩道求める陳情採択」～ウイングベイー済生会病院間～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「ウイングベイに介護拠点を集約」
- 2021年03月01日 小樽ジャーナル 「きめ細かなサービス 済生会ビレッジ開所」
- 2021年03月02日 北海道新聞 「ウイングベイに済生会ビレッジ開所」 ～健康増進、介護柱に再生へ～
- 2021年03月03日 北海道新聞 「ウイングベイ前向き」～小樽看護専門学校の移転先候補～
- 2021年03月12日 北海道医療新聞 「済生会小樽 市民の健康づくりへ」 ～商業施設内に福祉拠点～
- 2021年03月15日 朝日新聞 「北海道済生会が福祉アート展」 ～小樽市民の健康福祉ゾーン 済生会ビレッジで～
- 2021年03月23日 北海道ヘルスケアイノベーションセミナー ～小樽築港エリアを中心とする “ウエルネスタウン構想”～
- 2021年03月25日 介護新聞 「北海道済生会支部 市民の健康づくり拠点」 ～商業施設内に 済生会ビレッジオープン子育てサポートと就労支援も～
- 2021年03月30日 織研新聞 「ウイングベイ小樽、済生会と協定」 ～ウエルネスタウンへ街作り担う 第一弾介護の相談窓口～
- 2021年04月 「済生」 大型商業施設と済生会が“まちづくり”でタッグ
- 2021年04月15日 北方ジャーナル5月号 ～健康と福祉をキーワードにウイングベイ小樽を再生へ～
- 2021年04月27日 「月間プロパティマネジメント」2021年5月号 ～商業施設のウエルネス増進策「ウエルネスタウン構築」～
- 2021年05月31日 北海道新聞 「塩谷神社前「なでしこロード」に」
- 2021年06月 「済生」 健康づくりをお手伝いウエルネスチャレンジ！
- 2021年06月08日 北海道新聞 「昼間定時制 働く学生確保」 ～小樽新看護学校市が方針～
- 2021年06月15日 北海道新聞 「ウイングベイのサービス +10分の運動で無料」～道済生会 今月は抽選で20人に映画券～
- 2021年06月03日 ぶらんとマガジン社 北海道医療最前線8月号～北海道済生会が創るソーシャルインクルージョン～
- 2021年06月30日 日経新聞 「旧マイカル小樽、福祉拠点到」
- 2021年07月 日経ヘルスケア8月号「済生会のソーシャルインクルージョンに計画について」
- 2021年09月15日 日経ヘルスケアWEB「済生会のソーシャルインクルージョンに計画について」
- 2021年12月08日 大学ジャーナル「地域に「未病院」機能を 小樽築港ウエルネスタウン構想、実行委員の募集開始」
- 2021年12月12日 みんなの経済新聞 「小樽築港ウエルネスプロジェクト委員会がメンバー募集 築港エリアに「未病院」創出構想」
- 2021年12月21日 北海道新聞 「健康づくり拠点動き加速 実行委、来月初会合」

- 2021年12月25日 北海道新聞 「みどりの里贈り物に笑顔」～サンタラン 樽商大生が訪問～
- 2022年01月 DIET & BEAUTY 「小樽築港でウエルネスタウン構想」具体化に向け実行委員会メンバー募集
- 2022年02月11日 北海道文化放送 のりゆきのトークDEお悩み解決！「増える一人暮らし 老後の孤立どう防ぐ？」
- 2022年02月15日 日経メディカル「ソーシャルインクルージョンに医療と介護の枠を超えて取り組む」コロナで広がった社会の分断にどう向き合う 社会福祉法人恩賜財団済生会がシンポジウムを開催
- 2022年03月07日 北海道医療新聞「医ケア児通所事業を開始～発達支援事業所きつてらす新事業所も開設～
- 2022年03月23日 織研新聞「進むウエルネスタウン計画」～具体化1年、機能を付加～
- 2022年04月 「済生」 栄えある済生会令和賞受賞～誰でもずっとここでのまちづくり～
- 2022年06月11日 北海道新聞 ウイングベイ小樽「健康・福祉」の出店続々～「ウエルネスタウン構想」に弾み
- 2022年06月24日 北海道新聞 ウイングベイでウォーキングを 明日初のイベント
- 2022年07月03日 東奥日報等 時流持論 ～政府一体の少子高齢化対策を～ 恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂
- 2022年07月14日 北海道新聞 赤井川の国際リゾート推進協 小樽に観光拠点開設～用具レンタル、リフト券販売～
- 2022年07月16日 北海道新聞「北後志の魅力ウイングベイで発信」～赤井川・国際リゾート推進協が案内所～
- 2022年07月26日 北海道新聞「生活の質向上 高齢者、障害者にも～ユニクロ小樽店商品紹介イベント～
- 2022年07月30日 STV札幌テレビ Mylist 「ユニクロで医療介護イベント」
- 2022年08月 「済生」済生会の不易流行論 ～ソーシャルインクルージョンの真価～ 恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂
- 2022年08月01日 北海道医療新聞 ヘルスケア報告会5日オンラインで
- 2022年10月15日 小樽ジャーナル JR小樽駅マーケット10周年記念事業 フードバンク開催
- 2022年11月04日 北海道医療新聞 ウイングベイ小樽で新たな拠点づくり～クリニックなどテナント募集～
- 2022年11月16日 インクルーシブ社会を目指して～ソーシャルインクルージョンとSDGsのまちづくり～
- 2022年11月29日 北海道新聞 固定資産税半減を要請～小樽ベイ市に「経営環境悪化」
- 2022年12月10日 北海道新聞 塩谷活性化へ意見交流会～北大院生が企画 幅広い世代参加～
- 2022年12月14日 北海道建設新聞 ウイングベイ小樽拠点に事業～深掘り 商業施設で介護や福祉展開～
- 2022年12月14日 北海道建設新聞 重大ニュース「商業施設の複合化進む」～変革期迎えた地方百貨店」～
- 2022年12月28日 北海道新聞「小樽ベイ「優遇」市は慎重」～固定資産見直し要請に「公平性検証」

- 2023年01月 月刊おたる 小樽になくてはならないもの～地域資源としてのウイングベイ小樽～
- 2023年01月05日 済生会ソーシャルインクルージョンシンク シンポジウム インクルーシブ社会を目指して～ソーシャルインクルージョンとSDGsのまちづくり榎引久丸
- 2023年01月12日 北海道新聞Dセレクト そして「ウイングベイ小樽」も生き残った～橋本茂樹・小樽ベイシティ開発社長
- 2023年01月12日 FM小樽 Bay AreaTime ウェルネスタウン構想 北海道済生会榎引久丸
- 2023年01月15日 産労総合研究所 病院羅針盤 済生会のソーシャルインクルージョン 北海道済生会のまちづくり～その1 北海道済生会がまちづくりに取り組む意義とこれを踏まえた基本構想～ 北海道済生会榎引久丸
- 2023年01月19日 北海道新聞えぞふじ ウェルネスタウン構想 笹原 馨
- 2023年01月19日 北海道新聞 フードバンク小樽にも広がる～3団体生活困窮世帯に食品配布～
- 2023年02月15日 産労総合研究所 病院羅針盤 済生会のソーシャルインクルージョン 北海道済生会のまちづくり～その2 「ウェルネスタウン構想」持続可能な地域形成の取り組み～ 北海道済生会榎引久丸
- 2023年02月15日 時事通信社iJAMP<<市政コーナー>>◎全国初、発達障害児の「保育園留学」＝北海道7小樽市
- 2023年03月 インクルーシブ社会実現に向けた福祉のあり方に関する調査研究～発達障害に焦点を当てつつ～ 北海道済生会榎引久丸
- 2023年03月08日 北海道新聞 塩谷の歴史を伝える紙芝居完成～小学生のSF劇をもとに～
- 2023年04月13日 北海道新聞 移動支援 高齢者支える 塩谷地区済生会患者以外も送迎
- 2023年05月12日 FM小樽 Bay AreaTime ウェルネスタウン構想2 北海道済生会榎引久丸
- 2023年05月13日 北海道新聞 築港の巨艦 歴史・現状を探る ～橋本茂樹・小樽ベイシティ開発社長
- 2023年06月08日 小樽ジャーナル 済生会小樽病院クラウドファンディングで農園づくり
- 2023年06月09日 厚生福祉 発達障害対策の推進恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂
- 2023年06月14日 暮らし×医療共創事例カンファレンス講演 北海道済生会榎引久丸
- 2023年07月07日 北海道新聞 福祉農園整備へCF小樽の済生会、塩谷・桃内地区で
- 2023年07月17日 LIFULL HOME'S PRESS 民間病院の主導により「誰もが健康で暮らし、働き、活躍できるまち」をめざす、小樽ウェルネスタウン構想はどのように始まったのか？
- 2023年08月01日 北海道新聞 変わるウイングベイ商業と福祉の融合～買い物楽しみ介護予防～
- 2023年08月02日 北海道新聞 変わるウイングベイ商業と福祉の融合～空床に健康のまち構想～
- 2023年08月03日 北海道新聞 変わるウイングベイ商業と福祉の融合～巨大だからこそ多機能に～
- 2023年08月07日 北海道新聞 声を出して運動 楽しみながら健康に ウイングベイ小樽で催し
- 2023年08月14日 北海道医療新聞 和衷協同 済生会小樽病院 医療介護福祉のまちづくり推進
- 2023年09月07日 北海道中小企業同友会講演会 元気な小樽を、もう一度ここから～病院×地元企業×行政が織りなす地域創生 北海道済生会榎引久丸



編集 済生会ビレッジ
ウイングベイ小樽5番街1階
発行 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部
北海道済生会